

*** 今日の健康 (6月) ***

< コロナ変異株(その2) >

<英国株からインド株へ>

4月下旬からインド由来の変異株が英国株に続く「脅威」と考えられています。インド株は日本人に多い白血球の型による免疫が効きにくくなると指摘されており、感染力は英国株を上回るという報告もあり警戒が必要です。

インドでの感染は4月下旬1日34万人でメディアは連日インドの惨状を伝え、1週間平均では1日約34万人の感染が判明し、約2600人が死亡しています。病院のベッドが埋まり入院できない大勢が路上で酸素吸入を受けています。

インドでは大規模イベントの影響に加え、インド株の感染力の強さが関係した可能性があり、世界保健機関 (WHO) は4月下旬、インド株を「VOI (注目すべき変異株)」に指定しました。警戒対象としては、英国株が指定されている「VOC (懸念すべき変異株)」の一段階下の扱いです。日本でも同時期、国立感染症研究所がインド株を「VOI」に指定しました。感染研によると国内でインド株は空港検疫や都内でも見つかっています。

<インド株の免疫細胞から逃れる能力>

インド株には「L452R」と「E484Q」という2つの特徴的な変異があり、東京大や熊本大等の研究チーム「G2P-Japan」は4月、L452R変異は、日本人の6割が持つ白血球の型「HLA (ヒト白血球抗原) -A24」がつくる免疫細胞から逃れる能力があるという実験結果を発表しました。これは、6割の日本人がインド株に対して免疫低下の可能性のあることを意味し、研究チームによる別の実験ではL452R変異が人の細胞とくっつきやすく感染力が高いことが分かったと報告しています。

L452R変異は、米カリフォルニア州から全米に広がった変異株からも見つかり、研究チームは「HLA-A24は東アジア人に多く、またカリフォルニア州は米国で最もアジア人が多いことに由来しています。L452R変異はアジア人の免疫から逃れるために発現したとも仮定できる」と指摘しています。

インドのニュースサイト「プリント」の報道によると、同国ではインド株が英国株を凌駕し、置き換わりが起きたと報道しています。

日本では関西圏で英国株による感染再拡大が起き、首都圏にも広がっていますが、今後インド株が英国株の感染力を上回れば、インドと同様に拡大する可能性が出てきます。研究チームを主催する東大医科学研究所の佐藤佳准教授によると、「日本はこれまで、欧米に比べて感染者数や死者は少なかったが、今後インド株のL452R変異が脅威となる可能性がある。」と指摘しています。

主な変異		特長
英国株	N501Y	感染力が従来の1.2~1.6倍 重症・死亡リスク高い可能性があります。
インド株(二重変異)	L452R	3つの変異をすべてか、E484Qを除く2つの変異を合わせ持っています。E484Q変異の特長は不明ですが、L452R+E484Qでは特にアジア人で免疫効果を低下させる可能性があり、感染力が高い可能性があります。
	P681R	
	E484Q	
南アフリカ株 (二重変異)	N501Y	正式には「501Y. V2」、WHOのまとめによりますと、従来のウイルスに比べて、感染力は50%高いとみられ、病院での死亡率が20%高いとする南アフリカからの報告があるとしています。 E484Kの変異は免疫効果を下げる可能性があります。
	E484K	
ブラジル株 (二重変異)	N501Y	正式には「501Y. V3」、これは南アフリカで見つかった変異ウイルスと同じく「N501Y」と「E484K」の両方の変異が起こっています。WHOのまとめによりますと、従来のウイルスに比べて感染力は高いとみられますが、感染した場合の重症度については、調査中としながらも、影響は限られるとしています。
	E484K	